

土浦市中心市街地活性化協議会 第 19 回会議議事録

日時 平成 30 年 11 月 19 日 午後 1 時 30 分
会場 土浦商工会議所

1. あいさつ
2. 報告事項
第 18 回土浦市中心市街地活性化協議会
3. 協議事項
第二期土浦市中心市街地活性化基本計画（案）
に対する意見書について

第19回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

開催日時 平成30年11月19日(月)午後1時30分

開催場所 土浦商工会議所

出席者数 委員16名(代理4名)

出席者名

- ・中川喜久治(土浦商工会議所会頭)
- ・伊藤光二郎(土浦都市開発(株)常務取締役)
- ・大澤 義明(筑波大学教授)
- ・大竹 信長(土浦商工会議所青年部会長)
- ・石田百合子(土浦商工会議所女性会理事)
- ・塚本 隆行(土浦市都市産業部長)
- ・佐竹 守正(土浦商店街連合会会長)
- ・関 和郎(土浦商店街連合会副会長)
- ・大山 直樹(NPO法人まちづくり活性化土浦理事長)
- ・森 浩孝(土浦市地区長連合会会長)
- ・篠 捷子(土浦市女性団体連絡協議会副会長)
- ・高梨 将克(株アトレ土浦店主任)
- ・山田 孝行(土浦市金融団幹事行)
- ・伊東 博幸((一社)土浦青年会議所理事長)
- ・池田 正(土浦農業(協)代表理事組合長)
- ・永井 昭夫(茨城県建築士会土浦支部まちづくり委員長)
- ・櫛田 敏美(東日本旅客鉄道(株)土浦駅)※代理
- ・宮崎 裕一(土浦市金融団幹事行)※代理
- ・佐藤 之則((公社)茨城県宅地建物取引業協会土浦・つくば支部)※代理
- ・滝下 利男((一社)霞ヶ浦市民協会)※代理

オブザーバー

- ・横田 清泰(内閣府地方創生推進事務局参事官補佐)
(茨城県)
 - ・塚田 庄平(茨城県産業戦略部中小企業課主任)
(土浦市)
 - ・佐々木 啓(都市計画課長)
 - ・菊田 雄彦(まちづくり推進室室長)
 - ・長坂 英治(まちづくり推進室主任)
 - ・中泉 梢(まちづくり推進室主幹)
- (事務局：土浦商工会議所)
- ・松井 修一(事務局長)
 - ・加賀美吉彦(総務部長)
 - ・稲葉 豊実(土浦市中心市街地活性化協議会事務長)
 - ・菅原 伸司(商工振興課係長)

1. あいさつ

(中川会長)

秋が深まる季節ですが、土浦市においても様々な事業が目白押しで 17 日は水郷桜イルミネーションの点灯式が行われました。来週は中心市街地のイルミネーションの点灯式が行われ、年末商戦に向けてのきっかけになると思います。

1 年間を振り返る時期が近付いてきておりますが、今月の初めに商工会議所会頭として、会津市で行われた全国観光振興大会に参加して来ました。

全国から観光に関わる方のみならず多くの参加者が集う大会でした。地方都市はインバウンドを含む交流人口による取り組みなしでは活性化しないということは重要視しております。

大会の中で観光事業において重要なことは、地元民のプライドだという事を言っておりました。今朝の新聞では全国ゆるキャラコンテストが開催され、埼玉県志木市のキャラクターが優勝しました。インターネット投票による組織票の良くない話題もありましたが、これも地元のシンボルを日本一にしようという地元の盛り上がりだとは思いました。

土浦においては、中心市街地でのイベントが沢山実施されますが、これも地元民のプライドによって、毎年積み重なっている事だと思います。

商工会議所青年部は事業承継を意識しながら地元を盛り上げる若手の集まりでありますので、プライドをもって様々な事業に取り組んでいただいている事を嬉しく思っております。

今年からはじまる事業で「学祭 TSUCHIURA」が今週末に実施されますが、素晴らしい取り組みだと思っています。市内には高等学校が 10 校ありますが、全校が参加して自分たちの学校を PR する取り組みが駅前で行われるものです。

11 月 3 日には筑波大学で高大連携シンポジウムが行われまして、ここでも大学生の指導の下、高校生が地元を再生させようという研究発表がありました。

高校生の時に地元の事を真剣に考える機会は非常に重要ですし、この取り組みを中心市街地の活性化に関連付けるという「学祭」はとても良い事だと思います。

先週も土浦ではカレーフェスティバルがありましたが、ここでも高校生の作るカレーでコンテストをやることも面白いと思いましたが、地元の食材や良い所を掘り起こすことは中心市街地活性化の一つのテーマになると思います。

委員の皆さんにおかれましては、お忙しい時期ではありますがご出席いただいたことを改めて御礼申し上げます。オブザーバーの横田さんも毎回ご臨席いただきありがとうございます。

今回は計画認定に向けて大詰めの時期であり、市の職員の皆さんも緊張感がある時期だと思います。

大澤副会長におかれましては、基本計画策定委員長のお立場もありますが後ほどコメントをいただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

お手元の意見書(案)については、これまでの会議での意見を反映したのですが、集約しきれていない部分もあります。

我々は応援団ですので、それに向かう土浦市に対して後押しできるような意見書を作成したいと思っております。

より良い意見書が整備できるよう、活発なご発言をいただくことをお願いいたしまして冒頭のご挨拶とさせていただきます。

2. 報告事項

定足数報告

規約の定める 1/2 を満たしている事を報告。

第 18 回土浦市中心市街地活性化協議会

資料①前回議事録の提出をもって報告に代えた

3. 協議事項

第二期土浦市中心市街地活性化基本計画(案)に対する意見書について

(中川会長)

それでは、暫時議長を務めます。

活発な協議になりますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

本日の議題は、第二期基本計画(案)に対して、本協議会から公式に提出する「意見書」についてです。

この意見書については、前回までの会議を踏まえて叩き台となる(案)を提出いたしました。

これまで頂いたご意見については、極力反映させて(案)を作成しておりますが、記載漏れや表現の問題等、過不足があると思います。

年内にも提出する、意見書の最終取りまとめとなりますので、洗練された意見書になるよう、皆さんからご意見を伺って参りたいと思います。

まずは、土浦市より二期計画(案)について、前回会議以降で、修正された部分と、併せて9月に実施したパブリックコメントについてもご説明をお願いします。

説明は、土浦市都市計画課の中泉さんをお願いいたします。

(中泉主幹)

基本計画(案)の前回会議からの変更点について

策定委員会において、霞ヶ浦水質浄化の意見が出たことから、第二期土浦市環境基本計画の水質浄化に関連する部分を抜粋して掲載した。

市民ニーズのアンケート調査の部分で、経年で比較できるよう記載する方が良いと意見があったことから平成25年、27年分を追記した。

本年度新規に実施する「学祭 TUCHIURA」を計画事業に追加し70事業とした。
パブリックコメントについて

9月5日～21日の期間で実施し、6名から16件の意見があった。

これを受け、基本計画 No40 観光情報発信事業、No50 市民によるまちなか活性化事業に加筆した。

内閣府からの意見に基づく計画の修正について

新規出店数の目標値を55店から65店舗に修正した。

家賃補助事業について、商工会議所や金融機関と連携し相談窓口を設ける創業支援サービスの取り組みを加筆した。

(事務局)

基本計画(案)に対する意見書(案)について説明。

(中川会長)

それでは皆様からご意見を伺いたいと思います。

(石田委員)

市内は空き店舗が結構ありますが、空き家が中心市街地にあるのかどうか。

若い子育て世代はマンションより、一戸建て住宅の方が住みやすいと思います。専門家からマンションは中高齢者向けで、子育て世代は郊外の一戸建てに住むという話を聞いたことがありました。人口を増やすためには子育て世代を増やすことが必要ですが、中心市街地の位置図を見てそのような環境があるのか気になりました。

(佐々木課長)

土浦市の人口が13万人台に減ってきたなか、コンパクトシティ+ネットワークという考え方でまちづくりを進めているところです。

このなかで土浦駅、神立駅、荒川沖駅前に都市機能を誘導して公共交通に繋げてネットワーク化していく事が今後を考えた市の進む道だと考えております。

12年ぶりに中心市街地にマンションが2棟できる事は市としても喜んでおり、このような流れを計画に反映できればと考えております。

(佐藤之則氏)

本来であればインフラもそろっているので中心市街地に住宅を建てたいところですが、

空き地が沢山あるのに建たない状況です。中心市街地に住宅が建たないのは、道路や土地が狭いことが原因で郊外の分譲地に家を建てる人が多いことだと思います。

(篠委員)

中心市街地に人を住まわす事は厳しいと思います。

中心市街地には商業機能を集めて、人を集める態勢を整える事だと思います。若い人は車で移動しますので、街中より郊外に出て行く状況だと思います。

私も中心市街地で育ちましたが、昔は色々なお店があったので不自由しませんでした。今は街中に住むの方が買い物に苦労するという話を聞いていますので、もっと商業施設を充実する方針にすることが大事だと思います。

マンション建設が進むと商業施設が建ちませんので、賑わいの方向が違う気がいたします。

(佐竹委員)

篠委員の意見が中心市街地活性化の基本だと思います。いかに魅力的な店を作るのかという事にもなりますし、難しいとは思いますが、図書館など人が集まる施設ができましたから楽しめる街を目指してもいいのではないかと思います。テーマである「歴史が息付き人々が集う魅力ある湖畔の都市」が理想なのだと思います。

(中川会長)

先ほども話しましたが、「学祭」は市内に10校も高校がある地域は少ないと思いますし、全校が一堂に会し学校のプライドをかけてPRすることでものすごいエネルギーが中心市街地に集まることだと思っています。

1期計画でなくなってしまった「プレミアム付き商品券」も消費増税対策で再度実施することが検討されているようです。景気浮揚策としての仕掛けですので、中心市街地商業活性化に対しては反省する面もありますが意見を入れさせていただいた部分でもあります。

1期計画の一番のテーマは霞ヶ浦の水辺の活用だったと思います。先月には第18回世界湖沼会議が霞ヶ浦をメインテーマにつくば国際会議場で開催され、土浦市でもサテライト会場として霞ヶ浦市民協会ははじめ皆様にも大変活躍をいただいたことだと思います。

霞ヶ浦を中心市街地に持つ街として浄化のシンボルで噴水整備をお願いした経緯もあります。今回も政策の中には浄化をアピールする部分が入っているようですが、民間活力による部分が重要だと思います。このあたりの進捗はいかがでしょうか。

(佐々木課長)

1期計画においては、霞ヶ浦利用、市庁舎と図書館の移転の3つ大きな事業を進めて参りまして、駅前賑わいがある程度戻りつつあり、歩行者通行量はほぼ目標達成できそうな状況です。常磐線の品川駅への乗り入れ本数が増えていることなどもマンションが建設された要因であり1期計画の成果だと考えております。

2期計画ではこの賑わいを波及させたいという考えのなかで、ハードを活かしながら民間のソフト事業を取り入れたいと考えています。例を挙げるとNo61 まちなか商い体験事業は計画にも位置付けさせていただきました。更には「つちうら亀の市」や「つちうらが好き！ライブ」「サウンド蔵ムーンライトコンサート」やハロウィンやトリアスロン事業も民間団体が主となる事業がございますので、エリア全体の活性化に繋がられるように努めて参りたいと考えております。

(関委員)

話を戻すことになるかもしれませんが、今回は資料を事前に読めなかったのですが、今回じっくり読み込んでみて思ったのですが、以前横田オブザーバーから、便宜上「一期」「二期」と言っているけれどあくまでも別の計画であるという話を伺いました。

今回の計画を読み込んできましたが、一期を引きずって、少し足し引きして計画しましたという感じが拭えない気がします。

果たしてこの計画で通るのかと危惧しています。目玉になる事業が全然見えないです。

もう少しインパクトをつける必要があるのではないかと考えています。

また、内閣府からの意見で家賃補助の取り組みについて、空き店舗活用促進から新規創業までパッケージで支援できないかという要請について、私はワンストップでできる仕組みを考えられないのかということだと考えていて、これに対する回答がこの程度で本当に良いのかと思っています。これらを含めもう少し深く考える必要があるのではないかと思います。

(佐々木課長)

駅前の賑わいを何とか全体に波及させようということから、亀城公園でARアプリケーションを使った仕組みや、川口二丁目霞ヶ浦の水辺活用という点では市が先行して施設整備をしておりますが、民間が入って初めて市の整備が活きるということです。そのうえで駅前の賑わいを3つの拠点に波及できるのではないかと話をいたしました。

関委員から国からの意見に対しこの回答で大丈夫なのかというご意見がございましたが、11月初旬に内閣府の方々の現地視察を土浦にお迎えしました。

視察後の協議のなかで新たなハード事業は難しいと思うけれど、既存の施設を活用するようなソフト事業ができないかという話がありました。特に亀城公園を活用した取り組みと、また川口二丁目の整備で民間の活力が導入できればこれが目玉になるのではないかとアドバイスをいただきました。

また雑談のなかですが、マンションの建設は直接人口の増加につながるので大変いい事だという話を頂きました。

現在のところお示した内容で国との協議を続けておりますが、不十分だという指摘は受けておりません。逆に川口二丁目の事業が目玉になるものと考えております。

(森委員)

人口減少社会ですので、居住者を増やすことについてはかなり苦勞されることだと思います。土浦駅前を居住区にしてしまうよりは、商業を充実させて流動人口によって経済活動を活発化する方が望む方向なのだと思います。

しかし開発する面からすると空き家の問題があり、単独では難しいので行政でも民間でもエリアで総合的に実施しないと、将来的には苦しいのではないかと思います。

確かなことは分からないのですが、つくばエクスプレスを延伸して茨城空港まで持っていこうという話があります。20年以上前になりますが、つくばエクスプレスを土浦の中心市街地に持ってこようという動きがあったと記憶しています。

既存の路線を変更することは難しいと思いますので、土浦市は商業都市として出発したことを考えると駅前は商業機能を充実させて郊外に出て行かなくて済むようなことを考えなくてはいけないと思います。

今年は世界湖沼会議があって、来年は国体が来ます。再来年はオリンピックが開催され日本全国から関東地区に集まってくるので、その対策を含めて将来的な展開をみんな考えてはならないと感じました。

自分の頭の中にある考えは、昔七夕まつりが行われていた時期、土浦は凄い活気がありました。父親に連れられて来たことを覚えていますし、銚田の方の友人は大都市土浦とも言っていました。これを踏まえますと空き家になっている地区は行政が大胆に手を入れていくことを考えた方が良く思っています。

(中川会長)

一期計画では、市庁舎が駅前に来ることは防災の拠点としての機能もあるということで、つくばエクスプレスを土浦に延伸することは南海トラフ等の大災害の際に対する減災効果を見越して意見を述べていたと記憶しています。

最近の知事選や衆議院議員選挙においても、候補者が県内の延伸も公約に入れていきますので、来月県議会議員選挙がありますが、候補者の考え方についても捉えていくべきことだと思います。

我々と市は土浦に延伸してもらうことが一番ですが、石岡とも今後一緒にやっていくことを考えればまた違った側面もでてきます。

費用の面だけではなく東京の減災にもつなげられることも含めて地域の安全につながる

ることを意識してこの協議会では議論していただきたいと思います。

(大竹委員)

先日カレーフェスティバルが開催され、C-1 グランプリが行われ授賞式がありました。が、県外の方が SNS で発信された書き込みで「地元がなんであんなに優勝するのか」と書かれていました。全国からご当地カレーが来ているのになんで地元が上位を占められるのかということですが、非常にするどい指摘だと思います。

地元のカレー店もないのに何でカレーフェスティバルをやっているのかという思いも含まれている気がします。

我々は地元で利益を還元したいという気持ちで取り組んでいますが、来場者の気持ちは違ってカレーの全国大会というように見ている方が多いようです。

カレーフェスティバルを計画に入れていくのであれば、しっかりやらないと SNS の影響は怖いので、市で実施しなくても他の団体が実施するなど少しずつ変えて行かないといけないと思います。

(中川会長)

2 日間で 8 万人も集める大きなイベントになりましたので、日本中のカレーのナンバーワンを決められるような大会に成長すれば大きな意義があるのではないかと考えています。

冒頭に学祭の話をしてしまいましたが、産業祭などの延長で高校生のカレーを競わせるような取り組みがあっても盛り上がると思えました。

駅前でカレーフェスティバルという考えもありますが、8 万人を駅前に集めることの問題点も出てきますので、大竹さんが発言されたことは来年以降、市の考え方に影響を与えるものだと思います。

(石田委員)

違う会合で意見があったのですが、カレーフェスティバルの出店料について、ボランティアでやっている人たちも高い出店料をとられるから、もう出られないと言っていました。

出店料はどの店も一律なのでしょうか。

何千食も売れる店とボランティア団体が一緒ではどうなのかと思いますが。

(佐々木課長)

全店から出店料は頂いていると思いますが、一律かどうかは確認いたします。

学祭の話題がございましたが、人口 14 万人の都市で 10 校も高校があることは大きなことです。学びの街でもあるわけですから。その中で学祭ができたわけですが、初回は市が全面に出て行きますので賑わいに繋がるのは難しいかもしれませんが 2 回目 3 回目以降は高校生に自主的に取り組んでいただく方向で進めております。

(佐藤氏)

中心市街地とは直接関係がないかもしれませんが、今度給食センターが合併して新しくなります。子育て世代にアピールするのに給食を活用することは良い事だと思います。以前給食を食べる機会がありましたが、パンや牛乳は昔よりはるかに美味しいのですが、おかずがしょぼいんです。給食費が集まらないのでこのようなことになると言われました。

茨城は農業県でありますので、何とか破棄されるような野菜を仕入れて安くつくることなど、食育を前面に出せば若い世代に伝わるのではないかと思います。

足立区では朝食を食べない子供が多いことから、給食で朝食を出したそうです。このようなことを考えていくと食育を前面に出していけると思います。

(池田委員)

協同組合で連合会を作って「いばらきキッズ」の取り組みを通じて我々も食育に取り

組んでおります。

土浦でサミットが開かれた日を記念して11月11日はレンコンの日としております。

これに関連して、長野県の上田市の市場と協議をしまして、長野県内で採れないレンコンを小中学校の給食約7千食に寄付しております。

また、食育の一環で農協の職員が学校に行って、レンコンの話をして参りました。

長野県では給食の食材約55%は県内産を使っておりますが45%は他県の食材を使っているとのことでした。

このような食育の活動は要請があれば当然県内でも実施しております。

食材に関しては全ての野菜が提供できるわけではありませんが、農産物から食品に変わる間は連続性がありますので、この間はこうなっているんだろうというような食育はお手伝いができると思います。

レンコンが土浦市のブランドという事で認定を受けていますが、何処で食べられるのかとなった際に農協でレンコン専門店をつくる事も一つの考え方ですが、より美味しく市内の飲食店で様々なメニューで楽しめるようレンコンを提供させていただき取り組みも行っております。

今市内の方がレンコンを他地区に送っていただいている件数は1万を超えています。地元の方がレンコンを自慢して送っていただいて、市外の方に喜んでいただいていることだと思います。農商工連携の取り組みを進めて行きたいという考えをもってこのような会議に参加しておりますのでよろしくお願いいたします。

(中川会長)

今年は青年会議所が頑張ってトライアスロンを実施して、蓮田を走ることで参加者に喜ばれたと思います。日本一のレンコン産地なら蓮の花も日本一咲きますので、蓮田をもっとPRできるようレンコンの街土浦を発信して欲しいと思います。

サイクリストの集客にも繋がりますので、美味しいレンコンと併せて綺麗な蓮の花もどんどん広めて行って欲しいと思います。

(伊藤副会長)

先ほど中心市街地は居住空間にするか、あるいは昔のような商業地にして再生するかという発言がございました。

私はウララビルを管理している会社ですが、5年前まではイトーヨーカ堂が入っておりました。この再開発ができ上がるまでに四半世紀を要して様々な企業を誘致したと聞いています。

しかし平成9年にオープンして25年に撤退しましたので、足掛け15、6年しか居なかったわけです。

街中にスーパー等が欲しいという意見がありましたが、市民はわがままだと思っています。ヨーカ堂の代弁をするわけではありませんが、駐車場が入れづらいなどでなかなか買い物には来てくれなかったのに、撤退を表明すると「われわれは何処に買い物に行けばいいの」など、それから騒ぎ出す。西友などが撤退してきたようにこのようなことをずっと繰り返して来たのが中心市街地だと思います。

これを考えれば商業の都市土浦としての再生は非常に難しいのではないかと思います。

かといって居住空間にすることが良いのかと言うとこれも一概には言えません。

話が飛びますが、東口にウィザースレジデンスという68戸のマンションができます。完売できれば約150人程度の居住者が増えます。来年の3月に稼働しますから今年度内に東口の人口は増えると思います。

一方、図書館の北側には日立ライフが89戸のマンションを建設する予定です。これも完売すれば約200人程度の定住人口が増えるという期待感があります。

定住人口を増やすことと、何かを建てて来街者を増やして活性化する方法がありますが、この約3年間の間に市庁舎と図書館が駅前に建ちました。

今月NPO法人まちづくり活性化土浦で歩行者交通量調査を実施しまして、昨年の数字が図書館オープン前だったため一概には言えませんが、今年度の数字は日曜日、月曜日のカウントで3355人増えています。

歩行者交通量の指標ではウィークデーの数字はほぼ達成されていますが、週末の交通

量が非常に少ないことが書かれています。

しかし今年の交通量調査では6対4で週末の交通量の方が増えているという結果を得ています。

増えている所は駅前からアルカス周辺、意外でしたが中城通りが増えています。減っているのはモール505あたりです。

このようなことからハード事業が完成したことにより、如実とまでは言えませんが街中の流れが変わって人が増えてきていると感じています。

だからと言って私から結論は言えませんし、どうしたらよいかと日々悶々としているところがありますが、市役所、アルカスの移転によって駅前の歩行者は増えており、週末に図書館に来館する方も330人位増えています。アトレに来たサイクリストが増えている影響ではないかと考えています。

最後に市に対する質問ですが、二期計画のポイントになるであろう土浦港周辺整備です。来年3月に市が先行して整備した施設がオープンしますが、問題はこの周辺にどれだけ民間資本の導入が図れるかだと思います。

一期計画の最終年までに企業を誘致する計画と聞いていましたが、これが遅れている現状です。

たとえば二期計画の5年間とは言わないので3年間だけでも民間企業の誘致に長けた民間人の登用を考えられないでしょうか。年間800万円3年で2,400万円位の予算を計上して、思い切って早期に民間資本の導入を図れないものかと考えています。

(佐々木課長)

土浦港周辺整備につきましては、二期計画の目玉となる民間と共に取り組むサイクリング事業として進めております。

このなかで、先行してサイクリング関連の施設を市が整備しており、この周りに賑わいに寄与する民間企業に来ていただきたいと誘致を行っているところです。

これに長けた方に予算を付けてはどうかというお話でしたが、現在次年度の予算取りの時期ですのでここで答えはできませんが、我々も民間誘致については素人でありませぬので、何かしら予算措置を施して、例えば金融機関等と連携してマッチングができる事業展開を考えております。

マッチングの良い所は先が見えている事で、早々と業者が決まる可能性もあると期待できますので、ある程度の費用をかけて取り組みを進めたいと考えております。

(中川会長)

冒頭で話した観光振興大会では、地方の活性化には、地銀の活躍が重要だという事を聞いて来ました。

地元の金融機関が民間の活力を促進してくれるという事を会津でも言っていましたので、金融団もお力添えをよろしくお願いします

(山田委員)

地銀としてもお話があったことに如何に関わるかがテーマになっています。

一期計画を礎に第二期のテーマが「歴史が息付き人々が集う魅力ある湖畔の都市」であるわけですが、これの具体的な事業の一つがサイクリングであり、もう一つのビジョンが未だ明確になっていない状況だと思います。明確なビジョンが出てくるとこれに対するマッチングが一步進められるように感じました。

サイクリングでは霞ヶ浦から筑波山を含めた広域の取り組みは分かりますが、土浦の霞ヶ浦から歴史ゾーンの間で何を打ち出していくのか。カレーというテーマもあります。そこに明確な提案があればより具体的な事業が提案できると考えております。

(滝下氏)

新しい事業でサイクリング事業が取り上げられていますが、道路の安全性を心配しております。サイクリングロードでは通りがペイントで示されているところが多いですが、全てのところに施されているわけではないので、危険な個所も見受けられます。

計画のなかで東口のエスカレーターの整備について触れていますが、サイクリング事

業を行うなら誰でも安心して走れる状況が必要だと思います。この観点からの議論がこれまで見受けられなかったのでご意見させていただきます。

(佐々木課長)

昨年5月に自転車活用推進法という法律が施行されました。健康面や環境面から自転車が注目を集めるなか、国で自転車活用計画を策定して、県もこれに合わせて策定します。土浦市も来年、観光圏と生活圏も含めて安全なコース取りを検討して計画を策定していきたいと考えております。

(滝下氏)

サイクリングの計画のなかに、安全性という言葉が一切出てこないことを心配しています。拠点や施設の整備点は分かりますがアクセスする道路の安全性については触れられていないことが気になっています。

(佐々木課長)

安全性についても検討していこうと考えている段階ですので、入れられる文言は入れて行きたいと思います。

(佐竹委員)

中心市街地の位置および区域ですが、土浦は高校生の街と、夜の街だと考えています。学祭が実施されますが、やるのが少し遅いように思っています。なぜか桜町の繁華街がエリアに入っていません。今でも市内で数少ない来街者が多い地区ですので地域に含めることも必要だと思います。

(中川会長)

土浦はつくばと違って、仕事した後に落ち着いて遊べる街にして欲しいという意見を持った方は大勢います。大事なことではありますが、エリアに含むことに関しては問題があるようです。

(大澤副会長)

食育の話題など今日も多く議論があつて勉強させていただきました。

伊藤副会長からもお話がありましたが、歩行者が増えていて着実に効果はでていていると思います。昔と比較すると厳しいですが、何処の地域も人口が減っているなか減る幅を抑えながら逆に増やしていく事業の展開が必要だと思っています。

今日の会議で何回も出てきましたが学祭など仲間を増やしていく事は大事なポイントであると思います。

もう一つ大事なことは、やりきる力だと思っています。つくば市ではクレオの計画を取り下げたという事がありました。クレオの問題は中身の議論がほとんどされていなくて、全員協議会の議題にすら上がらなかったということでした。結局ガバナンスの問題になりました。やはりやりきる力は必要だという事です。

皆さんを前にして僭越ですが、やはり評価するのは外の人間だと思います。国が土浦をどう見ているのか、また民間がどう見ているのかです。そのなかでも人口の増加や財政の指数などありますが、やりきれるかどうかということも非常な大事な論点であると思っています。

今日頂いた議論を踏まえながら市と協議して二回目の認定を取り行くという姿勢で邁進していきたいと思っています。

(横田オブザーバー)

便宜上一期計画と言わせていただきますが、一期が終わり次の5年どうするかというところですが、市庁舎と図書館のインフラが整備されました。本来であれば川口二丁目の開発が入っていたわけですが、こちらは二期に引き継いでいくことかと思っています。

認定を考えた場合のキーワードはサイクリングになります。

前回の認定時と違うのは地域活性化の面で地方を再生することでした。昔のような土

浦をどうやって再生していくのかという視点があったと思います。

一方、現在は地方創生の枠組みの中での中心市街地の活性化に入っていましたので再生ではなく創生ですので新たな視点がなければならぬわけです。

これまでサイクリングの観点で中心市街地の活性化をした事例がないので先駆的な事例になると思いますし、私もサイクリストが増えていることは感じております。

拠点となるアトレも改装が進んでおりますし、国もスポーツをキーワードにした中心市街地活性化の成功事例になっていただきたいと期待しています。

川口二丁目の開発については民間活力を如何に呼び込むかだと思います。稼ぐ力を引き出すという事は、行政が苦手な部分でもあります。

伊藤副会長からお話のあった民間の知恵を使うことについては、民間で活躍した専門家を派遣する「地方創生プロフェッショナル人材制度」があります。この制度なども活用いただいて外の視点を取り入れながら川口二丁目の開発を進めていただくと目標を達成しやすくなると思います。

土浦市は、亀城公園や霞ヶ浦など様々な資源があります。地元の私が言うのも変ですが磨き次第で光る資源を民間の知恵を使うことを含めて検討いただきたいと思います。

地域資源に磨きをかけ、サイクリングを一つのキーワードとした中心市街地の活性化により土浦市から茨城県、ひいては日本全体の活性化につながっていただきたいと思っておりますし、国としても発展性のある計画に対しましては全面的に支援してまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。

(中川会長)

本日も貴重なご意見を頂きましたので、本日の発言も含め、加筆修正させていただきますが、土浦市に提出するまで、今回が最後の協議会となります。

期間も短いことから、意見書の修正につきましては、会長である私に、ご一任いただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。

修正したものは、皆様に送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

一期計画のフォローアップを含め活発なご議論を頂く中で、新たな課題や、改善策、目指す方向性など、会の中では共有が図られたと思っており、それを意見書にも反映していきたいと思っております。

協議会においては今回の意見書提出で、一つの責務を果たすという意味で一段落となります。

今後、国と市との調整が順調にいけば次回会議は次年度5月の総会になります。

新元号で迎える新年度総会で認定の報告ができることを期待しております。

最後になりますが、活発な議論をいただいた事へのお礼と、今後ともご支援いただくことをお願いいたしまして、本日の会議は終了といたします。

長時間ありがとうございました。